



全国リーエッセー
岐阜県

活発な取り組み
学生のころからあこがれていたこの診療所に、私は今年、医師七年目にして、赴任した。赴任してみると、保健福祉分野への取り組みは予想以上に活発だった。先の掛け声は、初代院長の中野重男先生の言葉で、現在にも予防重視の伝統が脈々と受け継がれている。

「予防を主とし、治療を従とする」。こんな掛け声の下、保健福祉分野の活動に積極的に取り組んできた診療所がある。それが郡上市地域医療センター国保和良(わら)診療所(旧国保和良病院)だ。二〇〇〇年には旧和良村は男性長寿全国一位に輝き、注目も集めた。

予防重視の伝統受け継ぐ

この地域は、脳卒中中の罹患率(率)と妊婦の死亡率が高いことが課題だった。ここで健康づくりの一端をなし、効果を挙げた。通常ならば三日で終わ

せるところを十カ月かけて行っている。一日の受診者を十人前後に限定し、一人一人に時間をかけて丁寧に説明する。受診率も63%と比較的高い。

また、この地方で「お元ですか」という意味の「まめなかな」という言葉から名付けられた「まめなかな和良プラン21」という健康計画を策定。これを基に、地域住民の代表である健康推進委員が月に一度集まり、住民参加型の健康づくりのマネジメントも行っている。

また、この地方で「お元ですか」という意味の「まめなかな」という言葉から名付けられた「まめなかな和良プラン21」という健康計画を策定。これを基に、地域住民の代表である健康推進委員が月に一度集まり、住民参加型の健康づくりのマネジメントも行っている。

また、この地方で「お元ですか」という意味の「まめなかな」という言葉から名付けられた「まめなかな和良プラン21」という健康計画を策定。これを基に、地域住民の代表である健康推進委員が月に一度集まり、住民参加型の健康づくりのマネジメントも行っている。

また、この地方で「お元ですか」という意味の「まめなかな」という言葉から名付けられた「まめなかな和良プラン21」という健康計画を策定。これを基に、地域住民の代表である健康推進委員が月に一度集まり、住民参加型の健康づくりのマネジメントも行っている。

理想的なモデル

和良地域もほかの多くの地域と同様、〇四年に合併して郡上市となった。診療所も元は国保和良病院という名称だったが、今年八月に郡上市地域医療センター国保和良診療所になった。今後は「郡上市地域医療センター」として、郡上市の地域医療

全体を視野に入れた活動も行う予定である。

地域医療の魅力として、「地域のおじいさんおばあさんと触れ合い、茶飲み話に花を咲かせよう」というのも、一つの大事な要素であると思う。しかし、地域医療は集団という枠の中とて

らえることのできる保健福祉医療連携においても、大変理想的なモデルなのだ。

最先端医療は都市部でしか受けられない、というイメージが一般の人にはあるかもしれない。しかし、現在は情報技術(IT)が発達し、最新の文献や情報を、地域にいてもインターネットを通じていつでも手に入れることができる。また、院長を中心

に患者さん一人一人に対する活発な検討も行われている。「見た目はどかな田舎だが、さまざま可能性が地域医療には秘められている」という確かな手応えを、赴任したばかりの私だけでなく、研修に来た数多くの医学生、研修医たちも目の当たりにしたことだろう。

(次回予定は山梨県)

ひろせ ひでお
広瀬 英生 24期生2001年卒



医師全員で患者について検討し、治療方針などを決める

郡上市地域医療センター国保和良診療所

【私の勤務地】7月までは35床の病院で、和良町の2200人を対象人口としていたが、地域の実情に合わせ、8月からは和良診療所としてスタートした。また、7町村が合併してできた郡上市にある5つの診療所を統括する郡上市地域医療センターにもなり、地域医療の幅広い活用を目指していく。

「」として、郡上市の地域医療